



毎年、赤い羽根共同募金にご協力
いただきありがとうございます。



1月1日から
3月31日までは、
テーマ募金期間
です。

みなさまのご協力を
お願いいたします。

©徳島県共同募金会

「共に支え合う未来を創る」助成事業

平成30年度 助成金交付決定団体一覧

- ・特定非営利活動法人一村
- ・えがお+for kids sports
- ・女性グループ・すいーぱ
- ・徳島県肢体不自由児者父母の会連合会
- ・特定非営利活動法人徳島県ボランティア協議会
- ・パープルシードあなん
- ・社会福祉法人白寿会グループホーム御所 (7団体)

本会では、昨年度より「共に支え合う未来を創る」助成事業を実施して、時代とともに変化する様々な福祉課題を解決し、共に支え合う未来を創るために、徳島県内の社会貢献活動団体や多様な機関が相互に連携し、課題解決に取り組む事業に必要な資金を助成しています。この助成事業により、各地域で、「健全育成」「生活支援」「健康維持」「災害対策」「支え合う地域づくり」の課題解決に向けた取り組みがより一層広がることを期待しています。次年度の助成団体の募集について、平成31年1月頃に御案内のお予定です。ので、本会ホームページなどを御確認ください。



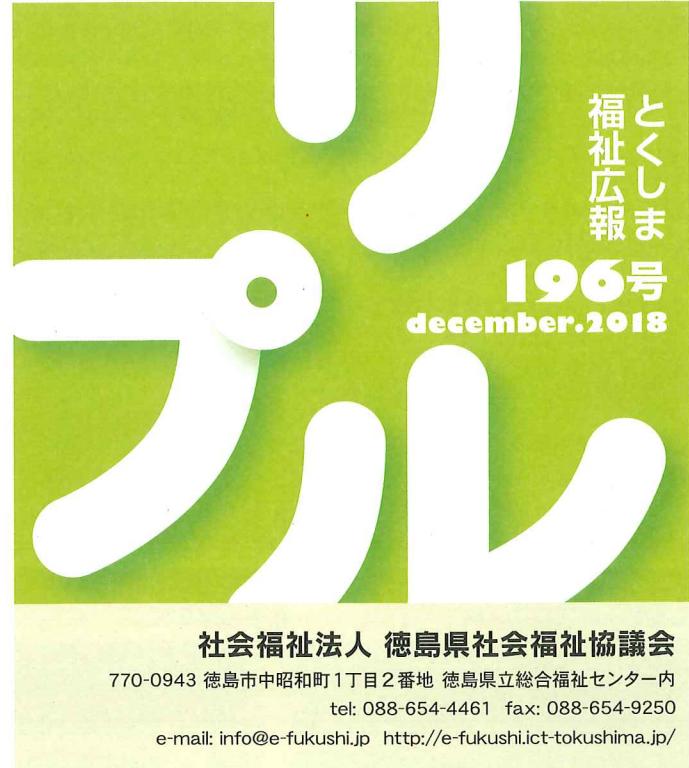
平成30年度助成事業要件

- ・「健全育成」「生活支援」「健康維持」「災害対策」「支え合う地域づくり」のいずれかの、課題解決につながる事業であること
 - ・なお、「災害対策」については、災害時のボランティア・NPO活動にかかる人材育成支援事業とする
 - ・3団体以上で相互に連携し、実施する事業であること
 - ・次年度以降の活動につながる事業であること 等
- <助成額> 1申請につき、上限20万円



RIPPLE リップルとは、波紋のことです。

この広報紙は、赤い羽根共同募金の配分金により発行されています。



NPO法人 竹林再生会議

「NPO法人 竹林再生会議」は、阿南の資源である竹を活用したものづくりを通して、地域の人々の暮らしを豊かにし、地域の活性化に取り組んでいる団体です。代表理事の長池さんの「竹藪は宝の山」、「竹材には無限の可能性がある」という言葉に魅了され、取材しました。活動の概要をご紹介します。



星形に組まれた「たけドーム」(夢ホールにて)



竹パウダーで汚物を分解する
バイオトイレ「ぶりフリー」

CONTENTS

特集
NPO法人 竹林再生会議
セカンドステージはたけのこ屋

ひと
small is beautiful
NPO法人 郷の元気 澤田 俊明さん

子どもたちのボランティア活動
「学校ボランティア部！紹介」
藍住東中学校 ボランティアA委員会
ボランティアB委員会

シリーズ この人から
子育て支援母子保健アドバイザー
「繩の会」 田口 許江さん

ハートリレー
No.45 板さんから阪井さんへ

New face
NPO法人 牟岐キャリアサポート

特定非営利活動法人 竹林再生会議

セカンドステージはたけのこ屋

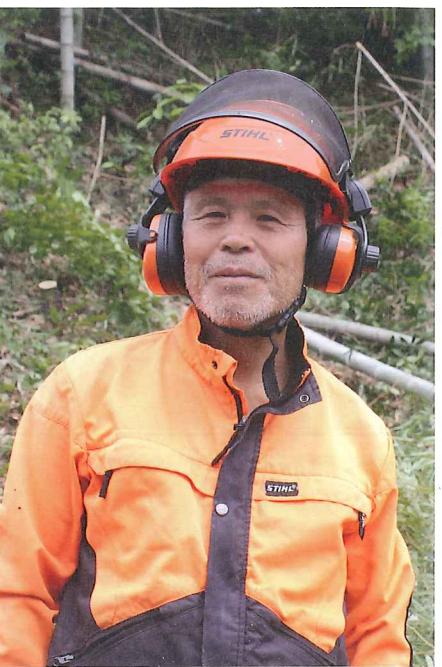
ながいけ ともしげ
代表理事 長池 奉成

たけのこ産地の復活をめざして

平成20年徳島県地域あぐり研修を受講したのがきっかけで、ペンをハセバに持ち替え、新規就農を「たけのこ屋」としてスタートしました。

日本各地のたけのこ産地や地元の先輩たちに指導を仰ぎ、親竹の適正管理の普及や放置竹林をたけのこが生産できる状態に回復させるこれまでの試みを通じて「親竹を適正に管理することで、より市場価値の高いたけのこを、高齢者がより長い期間にわたって生産

を継続できるようになる」「放置竹林の再生は適切な手順を踏まえて実施すれば十分可能であり、翌年から収穫可能なたけのこ生産林として再生できる」と確信を持つに至り、平成26年に仲間とNPO法人竹林再生会議を設立致しました。



多面的利用をめざして

5~6月の大きく伸びたたけのこの先端を水煮にし、ペースト状にして、食材にしています。これは、地域の障がい者作業所のドル箱になりました。

根元の部分は竹の和紙にしています。竹の和紙を使って、阿南支援学校では、カレンダーブックを、阿南工業高校では、卒業証書を作っています。

秋の間伐竹はパウダーにしています。阿南支援学校では、給食残渣を処理し堆肥づくりをしています。そして、学校菜園に使用します。また、阿南工業高校は、これで災害時快適トイレを作りました。

(平成29年度高校生技術アイデアコンテスト全国一位)



後継者育成に向けて

林野庁補助事業として、森林環境教育を阿南支援学校と阿南工業高校で週に半日、出前授業を行っています。授業内容は、竹の伐採、パウダーブック、竹ドーム制作、竹和紙などです。阿南工業高校は、一連の活動が評価され「平成30年度第13回環境省3R推進事業」大会において環境大臣賞を頂きました。

特定非営利活動法人 竹林再生会議

事務局長 加藤 真由美

当法人の活動に興味のある方、ご連絡お待ちしています。
住所:〒779-1630 阿南市橘町駒傍示120番5
電話:0884-34-3773 携帯電話:080-6285-0573

竹を活用したものづくり～作業所の設立を！

かとう まゆみ
事務局長 加藤 真由美さん

かん」とよく怒られていますが、教えてもらうことはいっぱいで感動とやりがいのある毎日です。

支援学校の生徒さんや高校生との関わりでは、まず、チェーンソーを掃除するところから始めます。バラして組み立てて、刃を研いで、木をチョンと切ってみます。シャーッと入っていけば上手に研げている証拠。最初から教え、マスターしてから山へ入っていきます。草刈り機も同じ。分解・整備から始まり、チェーンソーとの違い、機械のことが必ず分かってから切る事を教えます。生徒さんは、年間を通じて一緒に様々な活動をしていきます。

子どもたちは素直で、とてもかわいいです。支援学校で学んだ生徒さんが、安心して働くことができる作業所をつくることが私のねがいです。学校で修得した技術をいかして、竹を活用した産業に従事できるようにしたいと考えています。そのためにも、私たちは知恵をしぼり、竹林から生まれるものづくりに励んでいきたいと思います。



月に数回の阿南支援学校や阿南工業高校との交流のほか、事務所で竹紙の材料づくりや事務処理など365日活動しています。先を見通して物事を考える理事長に、目先のことしか考えていない私は「それでは、あ

竹林再生会議のみなさんと今回初めて組み立てた竹ドーム。竹の魅力を感じてもらいたいのはもちろん、僕たちのコンセプト「放置竹林をなくす」という想いを込めて、竹ドームをご覧になる方にメッセージを発信しています。阿南工業高校から阿南光高校にかわっても、僕たちがやってきたことや思いを後輩たちに受け継いでいってもらいたいし、放置竹林問題をたくさんの人々に知ってもらえるよう、僕たち自身、卒業しても関わっていきたいと思っています。



阿南工業高校
機械科3年生
課題研究グループ「あこうバンブーミックス」のみなさん



騒がしい音がしたけど、竹を一瞬にして粉々にしてしまう粉碎機の威力はすごかったです。

NPO法人竹林再生会議さんとの連携は、高等部生活科学科・産業工芸科の生徒たちにとって、将来の就業につながる貴重な体験だと感じています。なぜなら、学校ではできない豊かな経験を積み重ねることが、生徒の就労支援に結びつくと考えているからです。また、一般の方と交流することは、仕事の基本（挨拶、返事、報告等）

を身に付ける良い機会です。代表理事の長池さんには絶好のチャンスをいただき感謝しています。



阿南支援学校
ふじかわ しょうげん
藤川 彰巖さん

長池さんや加藤さんとの交流を通して、生徒は、地域の森林環境に関心を持つようになりました。普段何気なく見ている学校周辺の竹が、今日の作業で竹パウダーに変わり、環境にやさしい堆肥になったりバイオトイレに使われたりする。生徒たちは、竹を通して視野が少しづつ広がっていると思います。作業をしながら学ぶことは多いと思うので、このチャンスをいかしてほしいです。

阿南支援学校
やすとも さちこ
安友 祥子さん



(取材:菊本佳孝 日下睦子)

ひと

small is beautiful



NPO法人 郷の元気
代表理事 澤田 俊明さん

〒771-4501
徳島県勝浦郡上勝町大字福原字川北30番地
TEL・FAX: 0885-46-0676
メール: satonogenki@gmail.com
<http://www.facebook.com/satonogenki>

NPO法人郷の元気は、環境省の「持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に四国で唯一選ばれました。そこで今回は、その活動である「協働によるかみかつ茅葺き学校」を展開しておられる代表理事の澤田俊明さんに、お話を伺いました。温厚な笑顔の澤田さん。どんなお話を聞きできるのか楽しみです。

愛媛県宇和島市ご出身の澤田さん、徳島大学に入学したところから徳島県との縁ができました。大学卒業後、一旦大阪で就職されたのですが、再び縁あって徳島で就職されました。

郷の元気を設立する以前に、アーティストや建築家等、様々な分野の専門家の集まりである「徳島景観研究会」を立ち上げ、熱い議論を交わしていたそうです。

また、「この人は！」と感じた方には、1人ずつアポ

を取り、お話を伺ったそうです。その数なんと県内外で約150人。この時の出会いが後の澤田さんの骨格を作ることにつながってきました。

貪欲に学びたいと思っていた時に出会ったのが、日本の建築評論家第1号の浜口隆一氏です。浜口氏からは、ドイツ生まれのイギリスの経済学者E・F・シューマッハの思想や、J・J・ギブソンの環境と人のかかわりの見方などを教わります。シューマッハの著書のタイトルにもなっている『スマール・イズ・ビューティフル』という考え方（人間の背丈に合わせた科学技術により人間が想像力を發揮でき、永続性のある自然対人間の関係を育むというもの。）に大いに影響を受けたそうです。

シューマッハの経済哲学等に感化された頃は、市町村が合併を控えた時期でもありました。行政機関がなくなってしまって、まちのことをいろいろ考える組織は必要だと思い、他分野の人と一緒に、問題解決やまちの未来について考えようと平成18年にNPO法人郷の元気を設立されました。景観が好きで、にほんの里100選に選ばれた八重地の棚田をデザインされた澤田さん、いつまでも現場にいて地域貢献したいという思いが自分の根底にはずっとあるんだとおっしゃいます。

そんな郷の元気にも課題はたくさんあります。その1つは、後継者が経済的に自立できていないこと。今年度は棚田のオーナー制度をもっと広め、彼らが自立できる環境づくりに取り組む予定だそうです。また、専門分野である合意形成についても力を入れたいとおっしゃる澤田さん。いろんなことに興味は尽きず、お休みもほとんどないようです。澤田さんをそこまで動かすものはいったい何なのでしょうか。それは、関わった人の笑顔だとおっしゃいます。ゼロからのスタート、そして人と人が集まり、1つのものをつくりあげていくのが喜びだと答えてくださいました。

NPO法人郷の元気のみならず、(有)環境とまちづくり、一般社団法人かみかつ里山俱楽部等、たくさんの組織を作つてこられた澤田さんは、組織は違つても、関わっている人の「主体性」を大切にして活動を続けたいとおっしゃいました。

澤田さんのお話は、まるで壮大な物語を聴いているようで、優しい佇まいと相まって何とも心地良い時間でした。

(取材:丸山 明美・向井 亜里紗)

子どもたちのボランティア活動

「学校ボランティア部！紹介」

藍住東中学校 ボランティアA委員会
ボランティアB委員会

藍住東中学校には、A、B2つのボランティア委員会があり、主にA委員会では校外、B委員会では校内での活動を、合わせて約70人の生徒が協力して行っています。

A委員会では、町内の独居高齢者の文化祭への招待や校内での募金活動への協力の呼びかけや、世界の子どもたちへのワクチンの送付と障がい者の社会参加の応援を目的としたエコキャップの収集を、B委員会では、校内清掃や草抜き・ゴミ拾い、「藍住町身体障がい者ふれあい大会」での参加者受付や賞品係など大会運営のお手伝いの活動を行っています。

生徒たちは、「ペットボトルのキャップひとつでも人の命を救える、こんな活動をこれからも続けていきたい。」「人の役に立つことはとてもすばらしい。」「草むしりは人目につかないけど『きれいになっているね。』と言ってくれる人がいて、手伝ってくれることがうれしい。」「学校の周りがきれいだと、学校全体の『きれい。』につながる、隠れた努力があってこそ学校が美しくなりすばらしいことだと思う。」などの声があり、一生懸命に活動しています。



各クラスから持ち寄ったエコキャップの回収



校庭の草抜き

シリーズ この人から

子育て支援母子保健アドバイザー「繭の会」

会長 田口 許江



内閣府によると、18歳以下の子どもの自殺について分析したところ、夏休み明けの新学期が始まる時期に増える傾向にあると指摘しています。

この度、命の大切さを学ぶ事業として「なると赤ちゃん授業実行委員会」より依頼を受け、私と主任児童委員を兼ねている助産師の2名は鳴門市内の小学6年生を対象に講演させていただきました。内容は、「受精から誕生までの不思議」と「赤ちゃんの成長と発達」についての講義と、赤ちゃん人形を使っての抱き方やおむつ交換などの実習を行いました。

休憩をはさみ、会場を近くの公民館に移し、生後3ヶ月～10ヶ月の乳児とお母さん達との「触れ合い交流体験学習」を行いました。小学生は、こわごわ抱っこしたり話しかけたりする中で「やわらか～」とか「かわいい～」を連発し、お母さん達とも笑顔で接することができました。そして、ボランティアの皆さんとともに、楽しい体験学習の時間を過ごす事ができました。

少子化の現在、こうした取り組みは必要と



思われます。命の大切さは、子どもの時から学ぶべきだと思います。次回は、中学生を対象とした講演を依頼されています。小学生に対する授業とは、また違った形になるかと思いますが、今から楽しみにしています。

徳島文理大学人間生活学部児童学科非常勤講師・日本クリエーション協会公認インストラクター・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者・保健師・助産師・看護師・とくしま学博士

NPO活動に対する助成事業一覧

NPO・ボランティア団体の活動資金に対する県内の助成団体をご紹介します。なお、これ以外の助成金情報についても「とくしま県民活動プラザHP>助成金情報」に掲載しておりますのでご覧ください。

■文化部門助成金（公益財団法人阿波銀行学術・文化振興財団）

- ・募集時期：平成31年1月4日～3月29日
- ・助成額度：1件当たり50万円を上限
- ・お問い合わせ先：088-623-3131（総務課地域貢献事業担当）

■四国ろうきん社会貢献活動「助成金制度」（四国労働金庫）

- ・募集時期：毎年6月1日～7月31日
- ・助成額度：1団体20万円以内
(四国内に所在する法人並びに団体に限る)
- ・お問い合わせ先：087-811-8004（経営統括部）

■地域社会における生涯学習に関する事業及び文化事業に対する支援（公益財団法人徳島銀行生涯学習振興財団）

- ・募集期間：上期募集／毎年4月1日～8月末日
下期募集／毎年10月1日～翌年2月末日
- ・助成額度：1団体50万円以内
- ・お問い合わせ先：088-623-3111（総務部）

■徳島新聞社会文化助成金（公益財団法人徳島新聞社会文化事業団）

- ・募集時期：平成31年1月10日～2月8日
- ・助成額度：1団体につき20万円以内
- ・お問い合わせ先：088-655-7364（澤田さん）

■ハートフルゆめ基金とくしま

- (公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワーク)
- ・募集時期：上期2月 下期8月の年2回
 - ・助成額度：募集期間と目標金額を設定し寄付を募る
 - ・お問い合わせ先：088-678-2130（新田さん）

■徳島県福祉基金助成事業（公益財団法人徳島県福祉基金）

- ・募集時期：2019年度事業 平成30年10月22日～12月21日（2019年度も同時期の予定）
- ・助成額度：1団体につき70万円以内
- ・お問い合わせ先：088-654-0294（事務局）

■地域社会の森林、河川等自然環境の保全活動への助成

- (一般財団法人日亜ふるさと振興財団)
- ・募集時期：毎年7～8月ごろ
 - ・助成額度：1件100万円以内
 - ・お問い合わせ先：0884-22-2311（松下さん）

■共同募金活用事業「テーマ募金」（社会福祉法人徳島県共同募金会）

- ・募集時期：毎年7月中旬ごろ（ホームページ等）
- ・助成額度：自ら目標金額を設定し寄付を募る
- ・募金運動期間：翌年1月1日～3月31日
- ・お問い合わせ先：088-652-0200（事務局）

■JT NPO助成事業（日本たばこ産業株式会社）

- ・募集時期：平成30年9月20日～10月31日
(平成31年度も同時期の予定)

- ・助成額度：1件につき上限150万円

- ・お問い合わせ先：03-5572-4290（助成事業事務局）

■ゆめパンくしま助成事業

- (認定NPO法人とくしま県民活動プラザ)
- ・募集時期：平成30年5月1日～5月31日
(平成31年度も同時期の予定)
 - ・助成額度：1団体につき上限5万円
 - ・お問い合わせ先：088-664-8211（ゆめパンくしま担当）

ハートリレー

No.45 板さんから阪井さんへ



阿波 ZARU 事務局

さかい のりお
阪井 紀夫さん

一緒に登る仲間になる！

徳島市の阪井紀夫さんは、「阿波 ZARU」というグループで障がいがある人もない人も一緒に楽しめる交流型のクライミングの活動を行っています。阪井さん自身もクライミングを楽しみながら、色々なバックグラウンドを持つ人たちの交流の機会を提供されています。実際、阿波 ZARU には、障がいの有無や老若男女いろいろな方が来られています。私には視覚障害のある大学時代からの友人がいます。その友人がクライミングをしているという話を聞きました。初めはどうやって見えない壁を登っていくのか想像がつきませんでした。徳島でもその活動が行われていると知り、私も阿波 ZARU に参加するようになりました。視覚障害のある方がクライミングをする際は、見える人が次のホールドの距離や方向、形等を伝えていくことで、課題を登っていくことができます。普段は接点がない人同士でも、クライミングと一緒にすれば自然な交流が生まれ、すぐに仲間になることができます。今後、ますます阿波 ZARU の輪が広がっていくことを願っています。

文・板 華子

一生、いい歯と付き合うために。
「成人歯科健診を推進しています」

一般社団法人
徳島県歯科医師会

会長 森 秀司

徳島市北田宮 1-8-65 電話 088-631-3977



NPO法人 牟岐キャリアサポート

設立について

私たちが活動する牟岐町は、少子高齢化の進行に伴い、若者の数が減っています。

そんな町で4年前にサマースクール（Tokushima英語村プロジェクト）が開催されました。そのスタッフだった大学生が、「サマースクール期間中にお世話になった町への恩返し」の気持ちから、教育支援やまちづくりに取り組む団体（ひとつむぎ）を設立しました。

しかし、学生は2、3年で入れ替わっていくため事業を続けていくには苦労が絶えません。町からは、ひとつむぎの教育支援での効果を認めていましたので、私たちが行政や学校の間にあって学生が対応しきれないところをカバーし、この活動を地域に根付かせていくことを目標に、2017年12月に「牟岐キャリアサポート」を設立しました。

現在の主な活動

牟岐町で活動する学生団体の支援をしています。特に、教育支援について行政や地域の間にあっての日程調整や事業運営上のアドバイス、活動予算の相談などが主な仕事です。学生たちの活動には、色々な可能性があります。学生たちの主体性を尊重しながら、その可能性を引き出し、伸ばせるよう辛抱強く支援しています。

メインパートナーであるひとつむぎの活動が全国的に注目されるようになりました。研究会等に招待される機会が増えました。徳島県教育委員会主催の「地方創生コンファレンス」など県内のイベントに加えて、福岡、宮崎など県外の研究会でも事例発表をしています。内閣府の「平成30年度版 子供・若者白書」にも活動内容が掲載されました。

これからビジョン

現在、牟岐町では若い人材が不足しています。しかし、定住人口を増やすのは簡単ではありません。私たちは、牟岐町の子どもたちや学生時代にこの町に関わった若者たちが、この町を離れた後も関係人口として関わり持ち��けて欲しいと思っています。「地方」に生まれたことが、教育面などでハンディキャップにならなければならない、新しく豊かな学びに出会い、自分の良さを発見できる場所にしていきたいです。

（取材：山田 奈津・秋月 大輝）

NPO法人
牟岐キャリア
サポート

〒775-0004 徳島県海部郡牟岐町川長字新光寺82
E-mail oonishi.hiromasa.1@gmail.com
TEL 090-3780-7625

2019年度生申し込み受付中

精神保健福祉学科

通信課程

一般養成課程・短期養成課程（9ヶ月コース）

教育訓練給付制度
対象講座



詳しくは
QRコードから
HPをごらん
ください。

社会福祉学科

通信課程

一般養成課程・短期養成課程（9ヶ月コース）

好きを深めてプロになる



詳しくは
QRコードから
HPをごらん
ください。

CLEAN UP 吉野川をきれいに!
参加団体、募集中。



吉野川交流推進会議
〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地
TEL 088-621-2743
FAX 088-621-2758
E-mail office@yoshinogawa.org
http://www.yoshinogawa.org

とくしま県民活動プラザ

●プラザは、ボランティア・NPO・地域づくりなど、県民の皆さんの自主的、自立的活動を総合的に支援する拠点として平成14年にオープンしました。運営は（認定特定）とくしま県民活動プラザと（社福）徳島県社会福祉協議会・とくしまボランティア推進センターが協力して行っています。

●プラザ開館時間

開館時間：10:00～18:00

【研修室利用時間】

火曜日～土曜日：10:00～21:00

日・祝日：10:00～18:00

休館日/月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始



編集後記

今年は、あっという間に師走になりました。プラザに異動になり9ヶ月。時の経つのがこんなにも早いと感じたことはありません。

今日は誰に逢えるかなあと心待ちにする毎日です。人との出逢いは、「縁と運と勘」と頑なに信じているわたしです。逢うべくして逢ったなら、このご縁を心地良い関係に紡いでいきたいと思っています。

みなさま、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（丸山 明美）

ふくしと私



特別養護老人ホームねんりん

生活相談員 五軒家

ごけんや

ちか

高齢者福祉に携わり20年が過ぎました。その中で、私は「ふくし」のことをどれだけ理解しているのだろうかと考えました。高齢者福祉の分野に関してもまだまだ勉強不足で反省の日々ではあります。が、自分の思う「ふくし」は、「相手の気持ちを想像して寄り添うことだと感じます。

私は、小学生の頃の忘れられない思い出があります。同居していた祖父に認知症状が見られ始めからのことです。その症状は祖母が入院してから顕著に表れ始め、何度も説明しても「探しに行く！」と外へ出て行き、一人長い坂を歩いていたことを覚えていました。家族の言葉が伝わらず、時には大声で怒り出したりと、今までの祖父との違いに戸惑い、恐怖心すら抱き、私は祖父に対してだんだんと距離を取り始めました。呆けとか痴呆と言われた頃であり、家族は認知症についての正しい知識はなく、祖父の行動を否定する

ばかりでした。祖父は一人孤独感の中、祖母のいない不安と向き合っていたのだと思うと申し訳ない気持ちで胸が苦しくなります。あの時に祖父の気持ちを理解し寄り添うことができれば……。

現在、認知症の方が500万人いると推測され、将来700万人になるとの報告があります。施設での仕事を通し、認知症はその方の一部であって、今までのその方に何も変わりはないこと、その方の歴史を知り言葉を聞くことでその方に近づくことができる実感出来ました。

そういう経験を、現在、地元の小学校・中学校の生徒へ伝える機会があります。今年は、小学生と「認知症について○×クイズ形式で共に考え、中学生とは「認知症の方の対応について」日常生活での言葉のかけ方・

介助時注意点等、場面を変えて取り組みました。その際の生徒の表情は真剣で、こちらも嬉しくなりました。また、以前には中学生から体験後の感想文をいただいたことがあります。その内容が想像以上に色んな気持ちを感じてくれていることを知り大変感激しました。職員の励みになっています。

私の勤めている、特別養護老人ホームねんりんは、平成9年5月に設立され、やがて22年目を迎えます。利用者・家族・地域の皆さんに支えられ、平成28年12月には南

海トラフ地震に備えて県下で初の高台移転となり、新施設での安心した生活を継続いただけます。

これからも、「ふくし」について少しでも多く理解できるよう人にとの出会いを大切にしていきたいと思います。

（※）天災タイプでは、天災（地震・噴火・津波）に起因する被保険者のケガを補償しますが（天災危険担保特約条項）、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

卓越した価値を提供し、地域・お客さまと成長していく良き「パートナー」をめざします

環境にやさしい銀行を目指し環境保全活動に取り組んでいます。

徳島県民生委員児童委員協議会

地域住民が安心して生活できる
まちづくりをめざして

徳島県民生委員児童委員協議会は、民生委員児童委員活動の能率的運営、連絡調整並びに活動強化推進に関する具体的な方策を調査研究し、この実践を促進するとともに、委員の資質向上し、活動体制の基礎を固め、社会福祉の増進を期することを目的として設立されました。主に、社会福祉行政・団体との連絡調整並びに民生委員児童委員活動の強化・推進に関する具体的な方法の収集や検討を行います。

現在2,006名（平成30年4月1日現在）の方が県下で活動し、県内各市町村に組織化されています。

平成30年度は、「地域における民生委員・児童委員活動の充実」「生活困窮者自立支援事業への対応」「災害時要援護者支援の推進」「関係団体との連携協力」の4つを重点において、様々な事業に取り組んでおります。

昨今、住民の生活・福祉課題が複雑化し、民生委員・児童委員活動への期待が一層高まる中、「自ら相談に訪れない人」、「SOSを発信することができるない人」などの課題を抱える住民を把握して相談・支援に繋いだり、地域の課題の解決に向けた仕組みづくりに参画したりして、地域の人びとが安心して生活できるまちづくりを目指します。



総会及び会長研修会



世帯の訪問・見守り活動

ともに生きる豊かな福祉社会を目指して

会長 速水 克彦

徳島県児童養護施設協議会



四国ブロック児童養護施設職員研修会

子どもの権利が大切に守られる施設をめざして

会長 片山 和義

徳島県児童養護施設協議会は、県内の児童養護施設7施設で構成され、会員施設間の連絡・情報交換や子ども同士の交流などを目的として、様々な事業を開催しています。

本会には7つの専門部会があり、卓球大会等の子どもたちが楽しめる行事の企画・実施や、被虐待児への対応方法やファミリーソーシャルワーカーに関する情報交換、心理療法等のノウハウのスキルアップ、多職種による困難ケースへの対応方法の検討を行っています。

また、平成31年秋には本県において「第73回全国児童養護施設長研究協議会・徳島大会」の開催を予定しています。全国各地からの参加者とともに児童養護施設の今後のあり方を共有し、全ての子どもたちの命と人権が大切に守られる社会の実現に向けた取り組みへと繋げていきたいと考えています。

本会では、これからも子どもたちが、安心して将来への希望を描ける環境を整備し、自立へ向けた支援を、続けていくたいと考えています。

徳島県共同募金会

平成30年度テーマ募金にご支援ご協力をお願いします。

徳島県共同募金会では、平成31年1月から3月末にかけて新たな手法による募金活動として、次の5団体がそれぞれ主体的に募金を呼びかける事業（テーマ募金）に取り組んでいます。このテーマ募金は、地域の様々な社会課題の解決に向けて、NPO法人等の活動に必要な資金を募集するものです。皆様からの暖かいご支援・ご協力をよろしくお願いします。

2020年パラリンピックに太鼓を叩く
障がい者の夢

NPO法人 太鼓の楽校

NPO法人太鼓の楽校は、三宅島芸能同志会と協力し、東京オリンピック・パラリンピックイベントで、健常者・障がいを持つ人たちが三宅太鼓で心を一つにして世界へ発信します。皆様の善意のご支援をよろしくお願いします。



障がい者のメッセージを伝える
「やまびこの詩」

NPO法人 徳島県ボランティア協議会

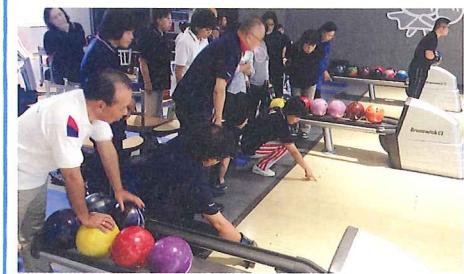
「やまびこの詩」は、心身に障がいを持つ人たちから詩を募集し、それらを朗読などで発表しています。だれもがともに生きられる社会を目指す私たちの活動を応援してください。



知的障がいのある方とスポーツでつながるための活動募金

認定NPO法人 スペシャルオリンピックス日本・徳島

スペシャルオリンピックスの使命は、知的障がいのある人たちに継続的にスポーツトレーニングと競技の場を提供することです。この取り組みを拡大するために、ご支援をお願いします。



おなかいっぱい心もいっぱい「気まぐれ子ども食堂」

クリネット徳島

親の多忙や貧困などにより家族と一緒に食事を囲むことができない、たったひとりで食事をしなければならない、食事を用意してもらえない子どもたちが年々増えています。皆様のご支援をよろしくお願いします。



生活用品等貸与(給付)事業

徳島県社会福祉協議会
(とくしま・くらし
サポートセンター)

生活困窮者に対する生活用品貸与(給付)事業を実施しています。就職活動や経済的な生活を送るために必要な用品を提供します。皆様からも応援よろしくお願いします。



阪神淡路大震災支援で徳島のボランティア



日開野 博

とくしまボランティア推進センター運営委員長。
徳島県下や中国・四国管内のボランティアの組織活動や福祉のまちづくり活動・地域福祉活動推進アドバイザー等として広く活動中。

平成7年1月17日に阪神淡路大震災が起こり、この年の2月の1か月間で約800人の徳島の市民ボランティアが淡路島の津名郡一宮町（現淡路市）で活躍しました。そこでは、四国四県社協（当時、徳島県社協幹事）が、淡路島災害ボランティアベースキャンプの名称で活動拠点を設置し、徳島から常時50人体制の市民ボランティアが3泊4日のローテーションを組み、一宮町で活動しました。記録では、兵庫県全体で約138万人の災害ボランティアの方々が活動しました。当時、わが国は大災害でのボランティア活動経験が少なく手探り状態での活動でしたが、日本人の相互扶助精神のボランティアマナーは世界中から注目され、その年をわが国では「ボランティア元年」と呼ぶようになりました。

その後、政府は市民参加のボランティア活動が広がることを目的として特定非営利活動促進法（NPO法）を平成10年3月に法制化し、目的型ボランティアグループや団体にNPO法人格を与え、活動環境の条件整備を行いました。

今日では、徳島のボランティア活動も多種多様で創造性に富み、生きがいと交流と繋がりのある地域生活課題解決型の活動へと広がりが見られます。